

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地の2		
電話番号	0834-84-0480	事業所番号	3570500425
法人名	社会福祉法人 白鳩学園		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 19 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤	5 人 非常勤 3 人 (常勤換算 6.1 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造瓦葺平屋建		造り	
	1	階建ての	~	1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額	20,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無	
食費	朝食	220 円	昼食	300 円	
	夕食	(おやつ含)480 円	おやつ	円	
その他の費用	月額	19,096 円			
	内訳	光熱水費 9,300円 共益費 8,060円 布団リース代 1,736円 / 月31日として			

(4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	3	要介護4	1	
	要介護2	3	要介護5		
	要介護3	2	要支援2		
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内科 津田胃腸科内科医院 徳山静養院 歯科 なし
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

自立支援を目指したケアサービスが提供されており、洗い場で自分の下着やソックスの手洗いやごみ出し、掃除、食材の買物等、日常の生活行為を職員と共に行なっておられます。活動的でメリハリのある暮らしを維持するために、折り紙や園芸、裁縫、手芸、紙芝居、工作、掃除、ボーリング、喫茶、歌唱等の楽しみ事にも取り組み、これは利用者の生きがいに繋がっており、利用者一人ひとりの表情が明るく豊かで、安心して暮らしている様子が覗えました。

(特徴的な取組等)

46年前から地域の中で知的障害者支援施設を展開してきた法人が運営しており、利用者は地域住民の一員として地域行事に参加し、地域から受け入れられ見守られながら暮らしておられます。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所や知的障害者施設との連携や協働と共に、施設内の中庭を使った利用者相互の交流やふれあいが行なわれ、地域、法人内の各施設が一体となり利用者の生活や安全、生きがいや楽しみ事を支援しておられます。又、地域の要請に応じ、認知症や福祉が理解されるような活動にも取り組んでおられます。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果は運営推進会議で報告すると共に、職員間でも共有し、家族への報告のあり方を検討した結果、毎月手書きの家族通信や3ヶ月に一回の家族向けホーム便りの発行を実現しておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

毎年9月を自己評価月間として、全項目を4回にわけ、全スタッフで検討協議し評価を行っておられます。評価をサービスの質の向上の一環として捉え、なぜのように評価したかなど、深く掘り下げて話し合っておられます。

(運営推進会議の取組状況)

地域住民の代表2人、行政支所長、地域包括支援センター、利用者4人(小規模多機能型居宅介護事業所利用者2人を含む)、家族2人、職員等をメンバーとして3ヶ月に1回開催し、時には消防署の参加も得ながら、行事や事業報告、地域連携や要望意見などを聞き、サービスに活かしておられます。

(家族との連携状況)

毎月手書きの家族通信を送付し、3ヶ月に一回は家族向けホームだよりを発行してホームの様子をお知らせすると共に、必要に応じ、随時の報告や連絡を行なっておられます。ホーム来訪時には、直接、健康や金銭の出納状況、介護計画への希望やその他要望を聞き、花見や敬老会、クリスマス会等家族が参加できる行事も用意し、家族とのふれあいの場とされています。

(地域との連携状況)

地域向けホーム便りを3ヶ月1回発行し自治会内へ回覧する他、小学校の運動会やふれあい夏祭り、自治会のいきいきサロンやサロンでの茶話会への参加、小学校で行なわれる月2回の移動図書館の利用や文化祭への出展等、交流をされています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	職員全員で話し合い、事業所独自の地域密着型サービスとしての理念を「地域とのふれあいの中で、助け合い、暮らしあう」としている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を事務所や玄関に掲示すると共に名札の裏に記載し、理念を身近に感じる事が出来るようにしている。研修やケアカンファレンスでは理念を共有しあい、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	小学校の運動会、ふれあい夏祭り、生き生きサロン、敬老会、文化祭、移動図書館などの地域の行事に参加し、地域との交流を楽しんでおり、地域の茶話会に誘われることもある。地域向け広報誌を3ヶ月に1回発行し、地域内に回覧して理解を深めている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員共に評価の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域代表2名、行政支所長、家族2名、利用者4名、地域包括支援センター、職員をメンバーとして、併設小規模多機能型居宅介護事業所と共同で3ヶ月に1回開催し、ホームの状況や評価結果を報告し、参加者と意見交換を行い、意見をサービスに活かしている。	・運営推進会議の開催回数の検討
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営やサービスにおいて課題や疑問が生じた時は市関係課とも積極的に連携をとり、サービスの改善や質の維持向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回の手書き通信や3ヶ月に1回の家族向けホームだよりで利用者の暮らしぶりや健康状態を報告すると共に、必要に応じ随時の連絡や報告をしている。利用料の支払いに家族の来訪があり、金銭の管理状況や利用者の状況、介護計画に対する希望や意見などを直接家族から聞いている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会や電話、運営推進会議などで家族の意見や苦情を聞き、運営に反映している。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員も明示されており、苦情処理の手続きも明らかになっており、家族にも説明している。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	管理者が通常のシフトに入っておらず、利用者の状況やその日の予定、職員の都合により柔軟に対応できるよう配慮している他、職員の話し合いによる勤務調整なども行なっている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は必要最小限に抑えるよう配慮しており、産休や育休にも対応している。新採用等のやむを得ない場合は、馴染みの職員を中心に早く馴染めるよう配慮し、混乱が生じないようにしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は年度当初に計画され、遂行されている。山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、同一地域内の研修や相互訪問、見学には職員も参加し、受講後は復命し、職員で共有している。新任、現任の研修計画もあり、必要に応じ県の中央研修や専門研修に参加している。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し研修会や交流会に参加している。地域内の同業者とは相互訪問や見学会、情報交換等の交流を行い、サービスの質の向上を目指している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待した 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や場に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>家族とも相談し、見学や隣接する小規模多機能型居宅介護事業所の利用等で、グループホームの雰囲気や場に馴染めるような機会を作り、安心して利用できるよう配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は掃除や炊事、買物、楽しみ事等、日々を一緒に暮らす事で喜怒哀楽を共有したり、本人から学んだり支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>毎日の暮らしの中から、暮らし方の希望や思いを察知するように努めており、困難な場合は表情やしぐさから汲み取り把握している。困難な場合は、本人本意に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月一回開催し、本人や家族の希望、主治医の意見を参考に、全職員で話し合い介護計画を作成している。家族の同意は得て、家族の希望や意見は来訪時に聞き取りをしている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、新たな介護計画を作っているが、現状に変化が生じた場合の見直しが不十分である。</p>	<p>・現状に即した介護計画の作成</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療機関への受診援助や送迎、理美容院への送迎、隣接小規模多機能型介護事業所の特殊浴槽や車椅子対応車両の利用を支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関や利用前のかかりつけ医等、本人及び家族の希望をもとに利用者それぞれにかかりつけ医があり、受診援助や送迎を行ない、適切に医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	契約時に終末期に対する事業所の方針を伝え、理解を得ている。介護度が4以上になった時や入院治療が必要になった時など、状況に合わせて関係者で話し合いを持っている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	一人ひとりの誇りや尊厳、プライバシーに配慮した対応を徹底しており、研修でも再三取り上げている。面会簿は一覧ではなく個表とし、記録等の個人情報は事務室に適切に保管してある。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日その日をどのように過ごしたいのか把握し、一人ひとりの希望やペースに添った支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材の購入から調理、配膳、食事、片付けを職員と共に行い、食事中も料理の話や時々の話を行ないながらゆっくり過ごしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴が可能で、利用者それぞれにくつろいで入浴が楽しめるよう支援している。利用者の状況に合わせて隣接の小規模多機能施設の特殊浴槽を利用する事もあり、安全で負担のない入浴にも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	折り紙や園芸、裁縫、手芸、紙芝居、工作、ボーリング、喫茶、歌唱等の楽しみ事を取り入れ生きがいのある暮らし作りを行なうと共に、食事作りや掃除、洗濯物の取り込み、片付け等生活の各場面で力量に応じた力が発揮できるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日交替で食材の買物に出かけたり、散歩や中庭でのラジオ体操等、努めて戸外に出られるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については研修会でも取り上げ、全職員で理解を深めており、拘束や抑制のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しているが、ホームが道路に面しており、玄関も職員が目が届き難い位置にあり、帰宅願望の強い利用者の安全に配慮し、施錠していることが多い。利用者の状態によっては施錠していない。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、必要な知識を学び、一人ひとりに応じた事故防止に取り組むと共に、事故・ヒヤリはたと報告書を検証し、二度と同じような事故が起こらないように取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成しており、緊急連絡網を整備し急変や事故発生時に備えている。救命訓練やAEDの取り扱い等の研修も行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回以上、日中と夕方を想定した避難訓練を実施している。理事長、管理者、職員共に地域消防団の一員であり、訓練にあたっては連携と協働を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	服薬一覧表や診療日誌等で、薬の情報収集を行い、利用者一人ひとりにそった服薬支援をしている。状況に変化があった時は医師や薬剤師に情報提供を行なっている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後の歯磨きは力量に応じて支援すると共に、義歯の手入れや歯ブラシの保管や清掃についても適切に支援している	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立は同法人の栄養士が作成し、利用者一人ひとりの健康状態に合わせた食事が提供され、摂食状況も把握されており、健康管理へ役立っている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、マニュアルにそった対応がされている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	台所、居間、食堂は日当たりも良く、中庭も見渡せ気分転換にもなっている。職員と利用者が一緒に作成した季節に応じたちぎり絵や花が飾ってあり、季節感を感じる工夫がされている。食堂に続く広い畳の間は、座って食事をする事も出来、安心とくつろぎのある空間となっている。下着やソックスなど手洗いができるような洗い場も備えられており、利用者の自立支援にも対応している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には備え付けの箆笥、椅子等が配置されている。使い慣れたテレビや本人・家族の写真が飾られ、趣味の物や小物、人形等が利用者の好みに応じて飾られ、居心地良く安心して過ごせるよう工夫をしている。	

自己評価書

【事業所の概要】

事業所名	白鳩老人グループホーム		
所在地	山口県周南市大字大島637番地の2		
電話番号	0834-84-0480		
開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
定員	登録定員 9 名	利用定員 通い 名	宿泊 9 名

【サービスの特徴】

母体の社会福祉法人白鳩学園は知的障害者の施設です。障害者と高齢者のふれあいの館として、ごく自然な形で互いに支えあっています。また、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所との交流もあり、グループホーム入居希望の方が長期滞在型でご利用になっています。「認知症になっても地域の中で安心して暮らしたい。」「自分らしさを保ちながらのんびりと喜びのある暮らしをしたい。」そんな誰もが願う普通で当たり前の生活を送っていただきたいと思い事業を展開しています。特に、今年度半期の新しい取り組みとしては、笑いヨガ(ラフターヨガ)体験やいい祭り協賛などがあります。

【登録者の概要】 (10月1日現在)

登録者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護1	3	要介護5 0
	要介護2	3	要支援1 0
	要介護3	2	要支援2 0
要介護4	1		
年齢構成	平均 81 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

【自己評価の実施体制】

実施方法	毎年9月を自己評価月間とし、今年も昨年度をベースに1～97を4回にわけ全項目を全スタッフで評価しました。全項目各々の自己評価を集計し、なぜそのような評価をしたのかを掲げ管理者と主任を中心にまとめ上げました。
評価確定日	平成 21 年 10 月 1 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	全職員で地域密着型サービスとしての介護理念や今年度の具体的な目標を掲げ、共通理解を図っている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	平成21年度事業計画に対する目標として新年度当初に研修を行い共通理解の下に事業を展開している。また、それぞれの名札の裏に理念と具体的な目標を掲げ、身近に感じることで実践に向け取り組んでいる。	
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	新年度当初に説明会や各々スタッフの介護目標を構築することにより、関わるケアに目的・目標があることを伝える働きかけをしている。	
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	利用者を最優先に考え、サービスの質の向上に努めている。	
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域活動のひとつである生き生きサロンとの交流会や運営推進会議などを利用して、少しずつではあるが理解は得られてきているように思う。	いこい祭りへの協賛
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	立ち寄ることはできても、気軽な訪問が日常的となるにはハード面ややや困難な部分もあるが、地元スタッフの協力を得て自然な付き合いが出来るように働きかけている。	今後も地域の協力を得ながら自然な付き合いができるように継続したい
7	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	職員、利用者も地域住民の一員として恒例になってきている地域行事には楽しんで参加できている。	毎月第3日曜日クリーン鼓南の日の清掃活動に参加したい。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	自治会や老人会と連携を図り、瓦版“ほのぼの”の回覧や配布で認知症への理解や協力の依頼に取り組んでいる。隣接の事業所のお祭りに協賛として参加し地域の一員として楽しんだ。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の意義・目的を理解した上で全員で取り組み、新たなニーズを改善に向け取り組む努力をしている。	介護サービス情報の公表とあわせ取り組みたい
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	回を重ねるごとにサービスの質の向上に向けた意見が出るようになり、検討・改善されている。また、その内容を全スタッフに周知できるように記録の回覧を実施している。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営やサービスにおいて様々な課題や問題が生じた際は積極的に市町村担当者と連携をとり、一緒に解決を図っている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護制度・成年後見制度の関連性や違いについての研修。成年後見制度と公的介護保険制度のかかわりについての研修を実施。	今後も定期的に取り組むたい。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修仙台センター発行の高齢者虐待防止教育システムに基づき11月13日(金)にスタッフ研修実施予定。	再度確認の意味で、研修内容で取り上げる機会を作っていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には事業所のケアに対する考え方や取りみ、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について十分説明を行っている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護相談員を月に1度派遣していただき、家族にも紹介し連絡先等を掲示している。また、利用者が運営推進委員のメンバーとして意見や不満を外部に表せる機会を設けている。	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動は面会時を利用して説明したり、家族向けのお便りで知らせている。金銭については使途の確認や金銭出納の明示を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		時間を取るように心がけたい。
20	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		職員全員が安心できる体制作りの検討。
21	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		介護現場の何が離職へとつながるのか考えたい
5. 人材の育成と支援			
22	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		特に認知症ケア・プライバシーの保護・倫理と法令の遵守についてはできるだけ多くの参加を呼びかけたい。
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		支援連携事業のメンバーとして同業者との関わりや独自の交流の機会を作り、ネットワークづくりやサービスの質の向上にむけ取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		有給休暇の活用や介護ストレスを溜めないようスタッフの心身の状態を推し量る。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		開設10年を迎え一緒に暮らす中で見失っては行けない尊厳について考えたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族には日ごろの関わりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。また、カンファレンスでの話し合いをもとに、本人の立場に立った計画書の作成に努めている。	
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者一人ひとりの介護計画の遂行状況、効果などを評価するとともに、状態変化や家族、本人の要望に応じて見直しを行っているが十分ではない。今以上に状態変化などに応じたプラン変更に変更の必要がある。	介護計画書に反映できる記録のしかたの検討。
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録などは個別のファイルがあり、いつでも確認できるようになっている。また、家族から申し出があれば自由にすることができ、職員間は申し送りノートを活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	緊急時の通院はもちろん、定期通院介助や散髪の支援程度で十分とはいえない。ただ、心身の状態に応じて必要な方には隣接の特別浴槽や特殊車両(車椅子対応)を利用している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、本人が地域の中で暮らせるように、公共機関の利用や地域団体への協力を呼びかけている。	呼びかけているが協働は少ない。レク活動や趣味を活かせるような支援依頼を検討する。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域ボランティアや民生委員などの見学の受け入れ、地域向けチラシなどで事業所の開放に心がけている。	地域の方の理解を得られるような働きかけや地域住民の方との触れ合う機会の設定を検討する。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	個別での他の事業サービスを利用することはない。理美容については、全員希望前提の上で訪問サービスを受けている。また、入浴困難な利用者は併設事業所の特別浴槽を利用できるようになっている。他事業所との交流は行なっていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりの誇りやプライバシーを尊厳し、日々の関わりに気をつけ徹底を図っている。また、面会簿の工夫等も行った。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>職員側で決めたことを押し付けるのではなく、生活の中で選択できる場面や言葉かけを工夫した結果、自己表現・自己決定できる方が増えた。</p>	<p>さらに、職員一人一人が利用者の意思表示できる場面づくりに心がけていく。</p>
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>日常生活の中で個々の力が発揮できるような場面や言葉かけに工夫してる。</p>	<p>今後も一緒に取り組み、本人のできる力を引き出していきたい。</p>
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日その日を一人ひとりのペースでどのように過ごしたいのか働きかける支援に努めている。</p>	<p>まだまだ受身的な生活リズムなので自発性の引出しや・選択肢の幅を広げたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えは基本的には本人の意向で決めている。ただ、自己決定が難しい利用者は職員が支援している。美容については地区の美容師に訪問美容を依頼し、できる範囲で本人の希望を聞いている。</p>	
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食材の購入から調理・配膳・食事・片付けに至るまで職員と利用者が一緒に楽しみながら行っている。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>自己管理のできる利用者には本人の嗜好(お酒・おやつなど)が日常的に楽しめるように支援している。また、一緒に買い物に行く機会を作り、日常的な楽しみのひとつとなっている。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の排泄間隔を把握することにより、尿意・便意の訴えの希薄な利用者にもトイレでの排泄を心がけている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		職員人数確保、又は運動可能な職員をできるようにしていきたい。
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		外出の機会にはひとりひとり差がある為、少ない利用者には今後も事業所から働きかけを行う。
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		他利用者には出入りが自由となる時間設定を行い、徘徊者には見守りを徹底する。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		ケアプランに立案されると再度申し送りノートで徹底を図る。
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		寒さに向かい再度報告書などで周知する。AEDの使用方法など定期的に訓練する。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬の副作用について一部の利用者に留まっているため、全利用者の情報を収集する。また、全スタッフが情報の共有や知識の向上を図るため勉強会等を開催する。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		まな板、ふきんなどは毎晩消毒漂白し、提供した食事についても一定期間冷凍保存し、食中毒の防止や衛生管理に気を配っている。食材の購入も一日分のみとし、買い置き・作り置きをしないことを徹底している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ハード的な限界はあるが、玄関内の柔らかさ、親しみやすさを感じてもらえるように創意工夫をしている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用での空間は利用者の手作りで色々創意工夫をしている。自分たちの作り上げた物が生活に取り入れられているため、馴染みの空間として落ち着きを感じる。	手作り品の補修や点検を行う。
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースのあちこちに、少人数で過ごせる空間を作り、居心地の良い空間として活用してもらっている。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込みに制限はない。ただ、事業所で画一的に設備がされたもので間に合うため、配置の工夫で居心地の良さを感じてもらっている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空気の入れ換えや温度調節には細心の注意をはらっており、心地よい空調だと感じている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	本人の活動性を維持し安全でかつできるだけ自立に向けた工夫として、車椅子・トイレ・老人車を活用している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の動きを観察し、必要に応じて手すりやカーテンのれんなどを設置し混乱や失敗の無いように配慮している。	
97	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物周辺には、中庭、洗濯干し場、ベンチなどがあり、体操したり、涼んだり、おしゃべりしたりと利用者が楽しめる空間として活用している。	外庭の掃除・除草

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> 家族の1 / 3 くらいと	<input type="radio"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の1 / 3 くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない